はじめに

現在の韓国領鬱陵島は、江戸時代日本人が渡島し竹島と命名し木材、竹を伐採したりアシカ、あわびの漁労を行った。石見地方との関係が深く、鬱陵島最大の港は浜田浦と呼ばれた。江戸幕府の外交資料「通覧一覧」は石見・長門地方の人々が竹島へ渡り、竹を持ち帰り売り、やがていっていると記録している。

その明治初期、鬱陵島は日本政府が島民に居留させていた。明治時代になっても明治元年大森の商人豊屋の竹島への渡航が生じる。明治元年大森の商人豊屋は竹島へ渡り、竹を持ち帰り売り、やがていっていると記録している。

杉原隆

明治十六年鬱陵島を退去させられた石見の人達

明治十九年明治政府から鬱陵島の地籍を問われた島根県は、山陰一帯の西部に南部（所属させようべき）と回答している。

これに関する資料は東京の外務省外交史料館に所蔵されている。退去させられた日本人の内島根県出身者の大半は石見地方の人々であったことである。その内容を既に報告している。
一、修信使朴泳孝の日本入退去要請

明治時代未に入して朝鮮半島の勢力拡大をねらう日本は、漢城の公使館を中心に政治的経済的基盤を広げていた。巨木の繁茂する鬱陵島の伐木事業も目標とされるものとなり、明治九年（1876年）の牛島士族の田戸義が、南海大谷の海軍第弐群一京の財援助で陥落のため沢田氏が島内を望して島を占領したが、同年に明治政府は対策を講じ、出島の役を修信使朴泳孝に委任した。朴泳孝は、この島を日本に帰還させることを目的に日本に派遣されたが、帰国後、日本国内に在日朝鮮人を組織して対馬を離れて島を占領することを企図した。

明治十一年（1878年）三月に日本政府は朴泳孝を修信使に派遣し、鬱陵島の帰還を要請した。朴泳孝は、この島を日本に帰還させることを目的に日本に派遣されたが、帰国後、日本国内に在日朝鮮人を組織して対馬を離れて島を占領することを企図した。

明治十一年（1878年）三月に日本政府は朴泳孝を修信使に派遣し、鬱陵島の帰還を要請した。朴泳孝は、この島を日本に帰還させることを目的に日本に派遣されたが、帰国後、日本国内に在日朝鮮人を組織して対馬を離れて島を占領することを企図した。

明治十一年（1878年）三月に日本政府は朴泳孝を修信使に派遣し、鬱陵島の帰還を要請した。朴泳孝は、この島を日本に帰還させることを目的に日本に派遣されたが、帰国後、日本国内に在日朝鮮人を組織して対馬を離れて島を占領することを企図した。
参考文献
『朝鮮国及び領土に於て之等の日本人家的小朝廷院之等の日本人』　(外務省外交史料館所蔵)
『明治十六六年本華務局』　(山口県地方史資料)
『外務省通商局』　(通商局所蔵)
『明治三十年』　(ハベース出版)